

CASE STUDY

Jeffrey Carter, MD
University Medical Center, New Orleans, LA

患者の状態

山火事の際に燃焼促進剤を使用し、両方の下肢に深達性部分層熱傷を受傷した62歳男性(図A)。本症例では、右下肢の9% TBSAに対するRECELL治療に注目する。

RECELL 治療部位



結語

本症例では、小範囲の深達性部分層熱傷にRECELLを使用することで、術後8日に100%再上皮化が得られる結果となったことが示された。治療部位は術後29日までに色素再生が認められ、患者によると炎症や搔痒感は無かった。

RECELL[®]使用による9%全層熱傷の治癒



術後8日

術後29日



治療法

1日目、右下肢へのハイドロセラピーの後Silvadene[®]ドレッシングによる被覆を行った。この創傷治療の2日後、創部に治癒の兆候が見られなかったため、RECELLを使用した。Versajet[®]で創部デブリードマンを健康な母床が露出するまで行った(図B)。RECELLシステムでSpray-On Skin[™]Cellsを作成し、母床への適用を行った。治療部位の被覆にはTelfa[™]Clear、Xeroform[™]、Kerlix[™]ガーゼ、ACE[™]ラップを使用した。

臨床的アウトカム

RECELL治療から8日後、意識下鎮静を行い、一次ドレッシング材の除去を行った。Spray-On Skinで治療を行った下肢は術後8日で100%再上皮化という十分なアウトカムが得られた(図C)。患者は術後13日で退院。熱傷専門クリニックに術後29日目に再来院し、炎症や搔痒感については、無かったと報告している(図D)。また、この患者は、疼痛は非オピオイド鎮痛剤でコントロールできたと報告している。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

